

# 民族共生象徴空間の 整備等について

---

国土交通省 北海道局

平成30年 6 月

明治 2年 開拓使を設置。蝦夷地を「北海道」と改称  
明治32年 北海道旧土人保護法制定

(戦後)  
昭和36年 北海道庁によるアイヌの福祉向上対策の開始〔生活館の整備等〕  
昭和49年 5月 国による北海道ウタリ福祉対策の支援体制の確立  
昭和50年代～ アイヌ民族に関する法律制定の要望(北海道、北海道ウタリ協会等)

平成 7年 3月 「ウタリ対策の在り方に関する懇談会」設置(五十嵐官房長官)  
平成 9年 アイヌ文化振興法制定  
(北海道旧土人保護法(明治32年制定)廃止)

平成19年 9月 「先住民族の権利に関する国連宣言」※法的拘束力なし

平成20年 6月 衆参両院において、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で採択  
同日 町村内閣官房長官談話(「アイヌの人々が先住民族であるとの認識」・「有識者懇談会の設置」)

平成21年 7月 「アイヌ政策の在り方に関する有識者懇談会」が アイヌ文化復興のための「象徴空間の整備」を提言

平成24年 7月 「象徴空間基本構想」決定(アイヌ政策関係省庁連絡会議)  
平成25年 9月 象徴空間の2020年一般公開に向けたロードマップをアイヌ政策推進会議(座長:菅官房長官)で了承

平成26年 6月 「象徴空間の整備・管理運営に関する基本方針」を閣議決定

平成29年 6月 「象徴空間の整備・管理運営に関する基本方針」一部変更を閣議決定

平成30年 4月 「公益財団法人 アイヌ民族文化財団」が発足  
(「公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構」と「一般財団法人アイヌ民族博物館」が合併)

## ○ 北海道アイヌ生活向上関連施策

(平成13年度までは「北海道ウタリ対策」)  
昭和49年度以降、アイヌの人々の社会的、経済的な格差の是正を図るための対策を北海道が実施し、国が支援

## ○ アイヌ文化振興関連施策

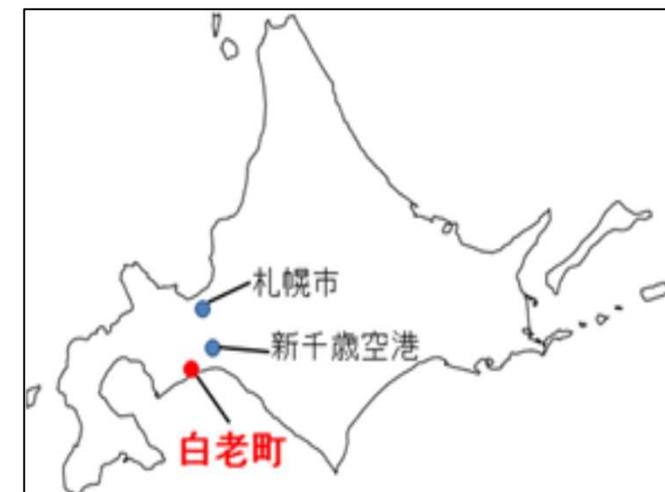
- ① 官房長官の「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会」が新たな施策等に係る提言を取りまとめ(平成8年)
- ② 「アイヌ文化振興法」の施行(平成9年)
- ③ 指定法人である「公益財団法人アイヌ民族文化財団」に対し、補助金を交付(補助率1/2)  
(主な事業)
  - ・アイヌ語・アイヌ文化の振興
  - ・アイヌの伝統等に関する知識の普及啓発
  - ・アイヌの伝統的生活空間〔イオル〕の再生 など

## ○ 「民族共生象徴空間」

アイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとして北海道白老町に整備

- ① 国立アイヌ民族博物館及び国立民族共生公園の整備
- ② アイヌ文化の伝承・人材育成・体験交流活動などの実施
- ③ アイヌ遺骨等の集約(慰霊施設の整備)
- ④ 運営主体((公財)アイヌ民族文化財団)を中心に開業準備を推進 等

- アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンター
  - ・ アイヌ文化復興・創造の拠点
  - ・ アイヌの歴史、文化等に関する国民の理解を深めるための拠点等
- 北海道白老郡白老町若草町のポロト湖畔に整備
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に先立ち一般公開
  - ・ 2020年4月24日（金）オープン予定
  - ・ 年間100万人を超える来場者を目標
- 「民族共生象徴空間」の主要施設
  - ・ 国立アイヌ民族博物館
  - ・ 国立民族共生公園
  - ・ 慰霊施設





# 民族共生象徴空間中核区域のイメージ※

※本イメージ図は、設計段階における案であり、変更の可能性がある

体験交流ホール活動イメージ図※



国立アイヌ民族博物館  
展示室のイメージ図※



(画像提供：文化庁)



伝統的コタン活動イメージ図※



# 民族共生象徴空間の具体化について

- 2020年（平成32年）4月24日（金）の一般公開を目指して、国や地方公共団体、関係団体や経済界等様々な主体が協力し準備を加速
- 施設整備には、アイヌの精神文化や自然観を尊重しつつ、アイヌの文化や世界観が強く印象付けられるような工夫
- 運営主体は、公益財団法人アイヌ民族文化財団（29年6月閣議決定）

## 国立アイヌ民族博物館

### 【整備の基本方針】

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

### 【施設概要】

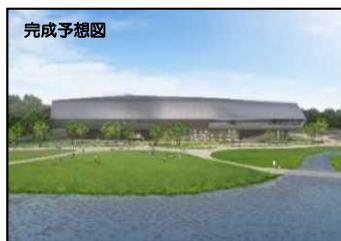
建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約8,600㎡

規模：地上3階

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

→ 平成30年2月に建設工事着手



## 国立民族共生公園

伝統的コタンや広場、ポロト周辺の豊かな自然環境等を活かしながら、舞踊、工芸等を始めとするアイヌ文化の多様な要素を一般の人々が体験・交流する体験型のフィールドミュージアムとして、また、多様な来園者が快適に過ごせる魅力ある空間を形成するために必要となる施設を全体基本設計に基づいて整備



→ 平成30年度は、土地造成工事・建築工事を実施

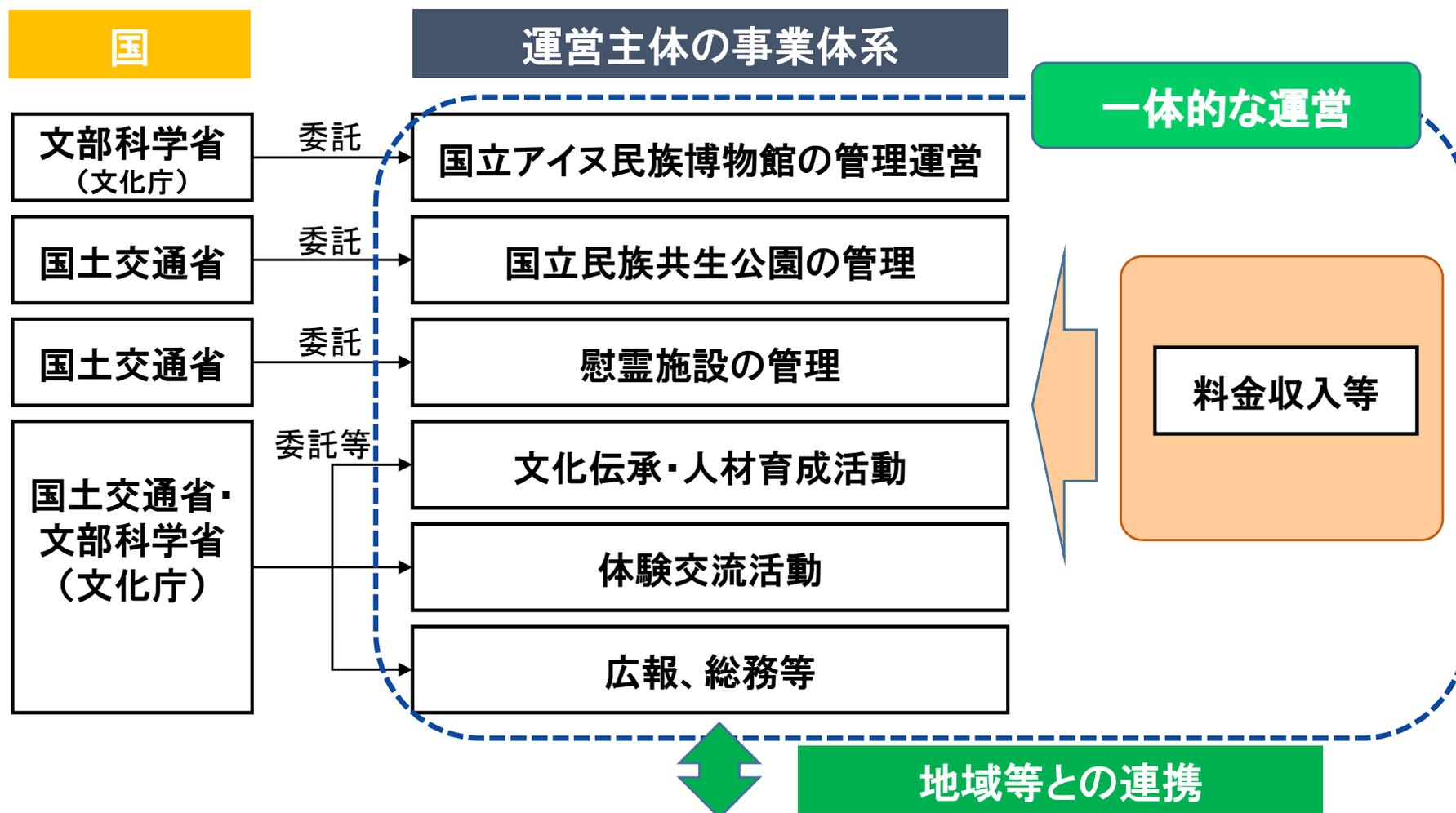
## 慰霊施設

アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現に向けて、ポロト湖の東側の太平洋を望む高台に慰霊施設を整備  
主要施設は、墓所となる建物、慰霊行事施設、モニュメント、前庭（広場）等



→ 平成31年秋頃の完成を目指し着実に整備

- ・多様な機能発揮のために、国からの委託等により象徴空間を一体的に運営
- ・料金収入等を安定的な自主財源として活用し、積極的・自立的な事業を展開



- ・文化伝承・人材育成等について、象徴空間と各地の活動が連携し、相乗効果を楽しむためのネットワークを確立
- ・象徴空間の円滑な管理運営について、アイヌ文化等の継承等が実施されている地域と連携し、総合的・戦略的な展開を推進
- ・誘客促進等について、北海道、白老町、周辺観光地等、経済界等の取組と連携

## アイヌの歴史と文化を6つのテーマで構成し、各テーマに目玉展示を設けて、国内外の方に分かりやすく紹介

### ＜展示の基本構成＞

1. 基本展示室へのアプローチ空間に、展示への期待感を高める「A 導入展示」を配置
2. 基本展示室入口に、代表的な資料を通してアイヌ文化を一望できる「B ブラザ」を配置。短時間の見学にも対応し展示更新でイメージを一新
3. アイヌの人々の「私たちの」という視点で語る6つのテーマで構成（「C ことば」、「D 世界」、「E 暮らし」、「F 歴史」、「G しごと」、「H 交流」）
4. 子供たちが主役となって楽しみながらアイヌ文化に親しめる「I 子供向け展示」を展示室内3カ所に分散配置

### ロビー展示（1階）

#### ○タッチパネルガイド

北寄道の市町村について、アイヌ語地名や文化伝承活動、関連施設等をタッチパネルで紹介する。

#### ○アイヌ文化ゆかりの地ガイド

各地の文化伝承活動や見どころ等をマルチ映像で多角的に紹介し、現地へ足を運んでもらうきっかけとする。



### A 導入展示

アイヌ民族や世界の民族との出会いを通して期待感を高めるがら展示室に誘う。



### B ブラザ

各テーマの代表的な資料を更新しながら紹介するガイダンス展示。



### C 私たちのことば

アイヌ語の基礎的な構造、地域差、地名、周辺語言との関係、言語復興の取り組み等を紹介する。

囲炉裏を囲み目の前で話を聞いているような臨場感ある映像

ガラススクリーンに語り手が登場し、あたかも目の前にいるかのような臨場感ある雰囲気の中で語りかけてくれる映像コーナー。みんなで囲炉裏を囲みながらアイヌ語による口承文芸などを聞くことができる。



囲炉裏のモニターで映像を鑑賞

### I 子供向け展示

ゆっく（り本を読んだり、体験キットやワークショップを使って楽しく学べる場（3カ所に分散して配置）。

展示資料との間をつなぎ理解を深める体験アイテム

各テーマに沿ったアイテムを配置し、自由に体験ができるようになる。

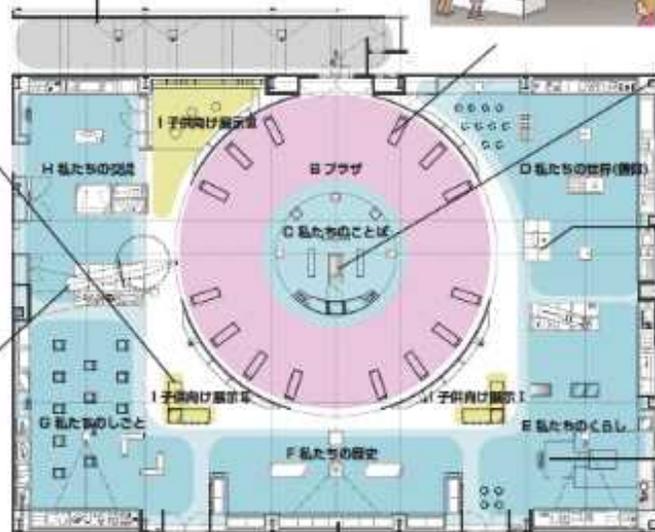


### H 私たちの交流

生活の中の交易品等から異文化圏間との交流の足跡を辿るとともに、近年の先住民族間土の交流を通して、日本における多文化共生の在り方等を伝える。

広範囲に及んだアイヌの人々の交易のシンボル“板艇舟”をダイナミックに展示

舟寸の複製舟を船に置き、しているような演出とともに展示し、周辺諸民族と広く交流した歴史を行ってきたアイヌの人々の足跡を印象的に紹介する。



### D 私たちの世界

アイヌの世界観を理解するためのカムイ（神）の考え方や自然観、死生観等を中心に紹介する。

クマと巨大なクマつなぎ棒でアイヌの世界観を印象づけるシンボル展示

置送り儀礼（イオマンテ）に表される実さ数メートルの巨大なクマつなぎ棒と装飾されたクマを象徴的に展示し、アイヌの世界観を印象的に紹介する。



### E 私たちの暮らし

衣食住、人の一生、音楽や舞踊等について多面的に取り上げ、アイヌ文化の特色や地域差、伝承に携わる人々の取り組みを紹介する。

家屋（チセ）が目の前で立ち上がり内部が再現されるAR展示

床面に厚く敷かれた家屋の壁取りをモニター越しに見ると、家屋の内部がAR（拡張現実 Augmented Reality）で立ち上がり、床地の特殊な暮らしの様子を見ることが出来る。



モニター越しにカメラで映した映像が見られる

床面から住居が立ち上がり、内部の様子や床の構造等を解説

### F 私たちの歴史

旧石器時代から現代までの時間軸、および周辺の人々との交流を含めた空間の広がりを重視し、重要なヒックを取り上げながら歴史を紹介する。

地図と年表が連動しアイヌの歴史をビジュアルに一望できるヒストリーウォール

ケース上部に大型映像を投影し、アイヌの歴史を視覚的にわかりやすく紹介する。



アイヌ関連の年表がゆっくりスクロールしていく

平面と連動し地図で周辺地域との関係や関連場所を紹介

### G 私たちのしごと

伝統的な生産活動に続いて、近代化の中で多様化していくしごとを広く紹介し、伝統文化が変化しつつも現代にまで継承されていることなどを伝える。

時代とともに多様化するしごとを人々の姿とともに展示

狩猟、漁撈、採集、農耕といった伝統的な生産業、代表的な装束や道具とともに臨場感あるシーン設定で紹介する。人物に焦点を当て、その後の近代化の中で変化していくしごとと比較できるようにする。



床面に家屋の壁取りを再現



モニター越しに見るモニター

# 体験交流プログラムの展開イメージ



国立アイヌ民族博物館

連携

  は毎日終日または定時実施   
   は臨時又は予約により実施

施設	朝	昼	夜
エントランス	来園者インフォメーション、到着時団体ガイダンス、迷子対応等各種サービス 歓迎   歓迎   歓迎   歓迎   歓迎   歓迎   歓迎   歓迎		
体験交流ホール	定時公演 ※上演に要する時間や頻度は、旅行者のニーズも勘案しながら引き続き検討 ※現代舞台美術・映像芸術などの融合 写真誌台湾アミ族文化村		
体験学習館 (A教室)	ムックリ製作   子供向け体験 ※土日・学校長期休暇   トンコリ演奏   ムックリ製作 ムックリ演奏   ムックリ演奏   トンコリ演奏   ムックリ演奏   トンコリ演奏		
(B教室)	アイス語体験   伝統料理試食   伝統料理調理体験   アイス語体験   子供向け体験 例. 屋外での狩猟小道具作り体験		
工房 (実演見学)	木彫実演 編み物・織物実演 刺繍実演		
(製作体験)	木彫・刺繍体験(アイヌ文様コースター) 民芸品複製体験(上級者向け)		
伝統的コタン (①ポロチセ)	エカシ・フチとの対話等 ※テーマ:アイヌの精神文化や祭具、伝統家屋等 アイス語体験   伝統儀礼見学・参加 ※臨時(毎月1回程度)   口承文芸 ※毎日1回程度		
(②チセ)	男性の伝統的生業をテーマとした対話等   漁労文化紹介   狩猟文化紹介		
(②チセ)	女性の伝統的生業をテーマとした対話等   伝統衣試着体験   植物利活用文化紹介   囲炉裏活用プログラム(コタンの四季)   植物採取道具製作体験		

屋外フィールド  
(伝統的コタン屋外、ポロト湖、自然休養林等)

伝統的コタン屋外  
例. 有用植物見本見学、  
工業用自然素材加工工程見学

自然休養林  
例. ハイキング、  
自然観察

ポロト湖  
例. 丸木舟見学・体験  
※関係機関との調整等を要す

## 1. アイヌ伝統芸能上演プログラムの運営準備



- ・ 17保存会等との連携による上演演目の選定
- ・ 舞踊の動線や上演シナリオの検討
- ・ 演出映像や音響技術の検討、機材の選定及び調達
- ・ 上演に際する外国人向け多言語解説手法の検討
- ・ 上演衣装及び舞台展示工芸品の製作 等

## 2. 各体験交流プログラム※の運営準備



- ・ 各プログラム内容の具体化、進行マニュアルの作成
- ・ 運営に必要な材料や機材の調達計画の検討
- ・ 運営体制や人材の検討及び人材確保に向けた調整
- ・ 各体験交流施設における展示工芸品の製作 等



- ※プログラム例（検討中）
- ①ムックリ製作・演奏
  - ②子供向け体験（キッズプログラム）
  - ③伝統料理調理・試食
  - ④アイヌ文様刺繍・彫刻
  - ⑤伝統儀礼
  - ⑥口承文芸
- チセ（伝統家屋）を用いた各種対話型プログラム（テーマ：漁労、狩猟、植物利活用、伝統衣） 等

## 3. 来場者100万人の実現に必要な機能等の検討

- ・ 飲食物販運営方策、収益事業の検討
- ・ 団体客集中時等の導線の検討
- ・ 各体験プログラム実施上の安全確保方策の検討
- ・ 接遇研修の検討及び接遇マニュアルの作成
- ・ 園内情報案内システム、多言語ガイドシステムの導入方策検討 等

## 4. 広報及び誘客促進、地域間交流活動企画

- ・ ポスター及びリーフレットの作成
- ・ ホームページの企画及び作成
- ・ 旅行会社等への誘客促進活動
- ・ 出張公演等を機会とした各種PR活動
- ・ 開業後の国内外の地域との交流活動の企画検討

## 日本縦断PRキャラバン

### 【実施時期】

平成30年8月頃～平成31年1月頃

### 【実施場所】

＜道内＞ 札幌市、新ひだか町、帯広市  
＜道外＞ 宮城県、福岡県、沖縄県

### 【実施内容】

- アイヌ文化の実演・体験（VR、舞踊・音楽、試食等）
- アイヌ民工芸品の販売
- VRコンテンツの制作（象徴空間来場体験）
- PRアンバサダーの出演
- 旅行事業者・教育関係者への誘客プロモーション など



イメージ  
北海道観光PR  
キャラクター  
キユンちゃん

PRアンバサダー※による  
アイヌ文化の魅力発信

※アイヌに縁のある  
俳優等著名人に委嘱

## 500日前 カウントダウンイベント

### 【実施時期】

平成30年12月11日（火）開設500日前

### 【実施場所】

札幌市、白老町、室蘭市  
（3市町同日開催）

### 【実施内容】

- カウントダウンモニュメント設置（室蘭市内）
- プロジェクションマッピング（札幌市内）
- PRアンバサダーの出演
- 古式舞踊の披露 など



※写真は1000日前イベント

# 来場者数 100万人へ

## 海外プロモーション

### ◇海外プロモーション

#### 【実施場所】

アメリカ西海岸、ハワイ、台湾、中国、ASEAN（タイ、ベトナム、シンガポール）、フィンランド、ニュージーランド

#### 【実施内容】

- アイヌ文化の魅力発信（舞踊、展示等）
- 道産品のPR など

※国・地域により実施内容は異なる



### ◇楽曲イランカラプテ～君に逢えてよかった～の多言語版制作

- 5言語程度制作（英、韓、台、中、タイ）

## 地域間連携の強化

### ◇地域のネットワーク体制の構築

- 事業検討会議の開催
- 道内周遊を促進させるための調査分析

### ◇広域観光周遊を促進させるツールの制作

- 道内各地のアイヌ文化や周辺の観光資源を周遊させるアプリの開発
- アイヌ文化や周辺の観光資源が体感できるVRの制作

※（公社）北海道観光振興機構の事業



## アイヌ文化発信

### ◇2020東京オリパラでのアイヌ文化発信

- パフォーマンスの統一化
- 練習用音源の作成 など

※（公社）北海道アイヌ協会の事業

### ◇アイヌ文化情報発信

- 巡回展・出前講演会の開催
- 学習小冊子の作成
- アーカイブの機能拡充 など

※北海道博物館（アイヌ民族文化研究センター）の事業



# 経済界等の多様な主体の参画による取組

## 「イランカラプテ」キャンペーン

アイヌやアイヌ文化に対する国民の理解を促進するための施策の一環として、アイヌ語の挨拶「イランカラプテ」(こんにちは)を、北海道のおもてなしのキーワードとして普及させることを目指す「イランカラプテ」キャンペーンを民学官の連携により平成25年度から様々な取組を展開

### 【取組事例】

#### 「第1回イランカラプテ音楽祭 in 阿寒湖」の開催

- 平成29(2017)年6月17日(土)に阿寒湖アイヌシアター イコロ(釧路市)において開催
- ※第2回は、かなやま湖畔キャンプ場(南富良野町)にて、平成30(2018)年7月28日(土)に開催予定



#### アイヌ語による車内アナウンスの実施

- バス会社の協力及び関係機関との連携により、平成30(2018)年4月1日から、沙流郡平取町を通過するバス路線において、アイヌ語による車内アナウンスを実施

スターティングセレモニーの開催(H30.3.31 於 平取町)



バス車内におけるアナウンスお披露目

## 民族共生象徴空間 交流促進官民応援ネットワーク

象徴空間の開設に向け、行政機関や道内経済団体等が一体となって、来場者100万人の目標に向けた誘客促進に取り組むとともに、オール北海道でアイヌ文化の創造発展と道内経済の活性化・地域創生の好循環を図ることを目的に平成28年11月に設立

### 【取組事例】

#### 民間企業との協働事例

- サッポロビール株式会社から提供された民族共生象徴空間の一般公開までを刻むカウントダウンボードを国内外から年間約70万人の観光客が訪れる道庁赤れんが庁舎前に設置



#### (公財)北海道観光振興機構による情報発信

- 北海道観光振興機構が運営する北海道観光を総合的に案内するポータルサイト内の「これぞ!HOKKAIDO」コーナーにおいて、民族共生象徴空間の関連情報を連載



# 民族共生象徴空間の開業に向けた準備活動等のスケジュール(想定)

